

感染の再拡大防止に向けた施策（道案）等に対する主な意見

1 専門家等の意見

- ・概ね妥当。情報発信において、事例集の活用に期待している。
- ・感染防止行動の実践については、手洗い、咳エチケット、マスク、距離をとるといった基本的項目も掲げてはどうか。他県の例では、「基本的な感染防止対策の徹底、三密回避、身体的距離の確保、マスク着用、手洗いなど」という項目が、要望より前に掲げられている。
- ・再拡大の可能性を見据え、「予兆の探知」、「迅速な対応」の実際の運用が大切と考える。
- ・異論なし。リバウンド防止の措置として年度末・年度初めの行動について、そして、行動変容の定着に向けた普及啓発についての道独自の取組が道民の心に染み入るかが鍵。「コロナ慣れ」「コロナ疲れ」を払拭する注意喚起をお願いしたい。
- ・基本的には了解。飲食の場面における感染防止のポイントについては、飲食業界の厳しい状況を踏まえ、減少傾向にある感染状況を踏まえ、適宜、対策を検討することが必要。
- ・道民は「対策疲れ」しており、気を緩めない程度のメッセージは必要。
- ・考え方は理解。道民に「対策疲れ」や「対策馴れ」が生じていることを懸念。まずは「集中対策期間」の終了を明確にし、今後は「感染再拡大の予兆の探知等」を的確に行い、「予兆に対して迅速に対応」するという対策方針を示し、道民の皆様には、3月から4月にかけて高まる感染リスクを回避するため、改めて、感染防止に資する行動について協力を求めるべき。
- ・「③まん延防止等重点措置の検討等」が整理され、改正法に基づく国の対策との関連が分かり易くなった。
- ・「②地域を限定した措置の実施」は、まさに現時点の札幌市の状態に近いものと理解するが、これまでの対策では、リスク回避の徹底を求めており、この度整理された「特定の地域や業態を対象とした外出自粛などの強い措置」は次の段階で行われるべきではないか。
- ・他府県との比較において、本道の状況が理解しづらいので、改正法の施行を契機として、対策ステージの呼称や判断指標について国の基準との整合性を図るべき。
- ・リバウンドが懸念される中で適切な取り組み内容で賛成。ステージ2以下を目指すという目標は明確でよい。札幌から離れた北海道の地方都市の事情を考慮すると、「IV②地域を限定した措置の実施」は適切かつ重要と考える。
- ・ステージ2以下に向けての対策内容には異論なし。ステージを下げていく上で重要なのは、次にステージを上げる基準を明確にしてから実施すること。感染拡大の予兆を見逃すと抑え込みに時間を費やす。3月の人々が動く時期が重要なポイントとなるので、市民への周知徹底が必要。慎重に進めてほしい。
- ・資料については問題ない。引き続き警戒が必要。
- ・卒業旅行の大人数の目安について記載があるとよい。発生者数が減少しているため、行動が緩みがちになることを懸念。
- ・集中対策期間の終了と、今後の対策の考え方については、異論はなし。

- ・「ステージ2に向けて」など、新たな目標をはっきり標ぼうした方がよい。また、「5月のゴールデンウィークまで」など、期限を示してほしい。
- ・知らない人は、もう、何もなくていいという感覚を持ってしまう。ワクチン接種とステージの階段低下のロードマップが必要。

2 市町村・関係団体の意見

- ・大規模なクラスターが発生するなど、大変厳しい感染状況を鑑みると、集中対策期間を終了するとしても、引き続き同等の対策を講じてもらいたい。
- ・クラスターに関わらず、感染経路が飲食場面である件数を公表するなど、感染の傾向がわかると注意喚起につながる。
- ・感染予防行動について、道民及び「新たに道民になれる方」に対し、いかに周知・徹底いただくかが重要となるため、道においては方策を一層整えられたい。
- ・社会経済活動の抑制が長期化したことにより、飲食・観光業を中心に経済へ甚大な影響を及ぼしており、引き続き迅速かつきめ細やかな対応をお願いしたい。
- ・「感染の再拡大防止」だけではなく、「さらなる感染者数の減少」や「減少ペースの加速」に向けて、道民や事業者に前向きに取り組んでいただけるような、加えて、これまでの努力を無駄にしないようなメッセージの発信の仕方を考慮すべき。
- ・「目標達成までの期間」や「目標達成後にどのようなメリットがあるか」などを含め、道民や事業者が「励み」を感じるような内容を目標と合わせて掲げることも検討いただきたい。
- ・特に飲食について、「デリバリー」「テイクアウト」「黙食や個食により料理そのものを楽しむこと」に伴う「GoTo イート」の再開など、感染防止対策と飲食需要の喚起を両立させるような施策を講じていただきたい。
- ・「どうみん割」については、例えばステージ2になったら再開するなど、早期の再開に向けて準備を進めていただきたい。
- ・ワクチンが早期に広く道民に行き渡るよう、また混乱なく接種を受けられるよう、事前の情報提供も含めて、市町村と連携して万全の準備と対応をお願いしたい。
- ・今回の資料にある「年度末・年度始めにあたっての感染防止行動」の徹底について、道民や事業者に改めてメッセージを発信いただきたい。
- ・医療提供体制への負荷は第3波の感染拡大前の水準に至っていない。再拡大させないため、道民に気の緩みが生じないようにしっかりと伝えていくことが必要。
- ・新規感染者数や入院患者数が減少していることから、集中対策期間を終了することには理解を示すが、検査陽性率や感染経路不明割合が増加していることには懸念。
- ・年度末・年度始めは人の移動が増加することから、道民に感染防止行動に向けた強いメッセージが必要であり、こうしたタイミングの行動変容の徹底を「集中対策」として打ち出すことが望ましい。